平新報

發行日　毎月二回　五日發行

編輯兼發行印刷人　山野邊庄吉

平市二丁目拾　發行所　平新報社

廣告料　一回五十錢　場所指定倍增　一號十二字詰一行

一部　定價金拾錢　送料　五厘

明年九月地方縣議戰を控え

下馬評に上る候補者の顔觸れと這回の得票調

來年九月二十五日は本縣々議の改選である、平市が市制を布かれた後の初めての地方選であつて平市が一名の議員を獨立して選ぶ事になる、然らば石城郡の定員はどうなるか、平市制を布かぬ從來は平町を合して定員六名であるが平市獨立一名除外されて他五名であるが聞く所に依ると石城郡部が六名となり、平市を合せて石城地方から七名の議員を選び得る事に内定し居るとの事である、それが立候補者の顔觸れの下馬評は早きに失するが氣早い連中の噂さどりを報じて觀る

平市　此處は平窪農村を合して選擧區で定員一名で過般市制を布かれて抽籤で決定した平市選出議員は關内正一氏その優先權ある理であるまいからの比佐派とか野崎派とかの同志關内正一氏一人の無競爭地帶となるなんては夢にも想像し得ぬ事で、同氏の立候補は自他共に認めて居る事である、然らば、氏を向ふに廻して勝敗を決するには何人立候補するか氏は政友會であり、同黨からは他に同一地盤として出まじく、そうすると民政黨である、民政黨とすると荻原義雄氏であるが氏は郡部に廻るらしい、その民政黨の別派をなす野崎組中からであるが山崎登、安島久、金成欽次の三氏のうち一人に決するらしい

民政黨　は三名出すとして、郡南は現職の小松章氏出でずば坂本龜太郎氏、中部は荻原義雄氏、郡北で草野三郎氏翁が翁なるが故に引退とせば此の方面から民政として出すまじく、結局ひの上手な其派として二名釜獲に向つて進むであらふ、此處で問題なのは民政二名とせば、野崎組はどうなるか、野崎氏自身が郡部に廻るか、他に同志を立つるか頗る從來の得票から擬して面白い縣議戰が展開される理である、此点はいくら選擧通でも判らぬ所であらふ

左に三年前昭和十年九月二十五日執行各候補の得票を掲して見る

草野	五、四九五
關内	四、八一八
小松	四、六一四
小野	四、四二六
逹沼	四、二四四
野崎	四、〇六七
赤津	三、二九六
齋藤	一、三七四

投票數　三二、三四四
樂權者數　六、八六二
有權者數　四三、六一八

當時の平町

有權者數	四、二六二
投票數	三、九九四
樂權	二九三

當時の平窪村

有權者數	六三〇
投票數	五一九
樂權	九五

右平町、平窪村中から關内氏が何票で野崎氏が何票なんて時勢は代る！死んだ！死んだ子供の歳を數へる樣なもの大した參考にもなるまいから止めることに

石城郡部　平窪村を平市に盜られた町村での定員六名である、既政黨、政、民から三名つゝか、それに養政會が這間の屈辱戰に打つて出つべくそれの顔觸れは比佐榮一氏か齋藤兎氏であるが、結局支部長たる齋藤氏自身が當落を度外視して再び全郡下の戰線に舌戰を展くであらう

政友會　は三名として、陳つて置くがこの政友會にも新政友とか舊政政友とかが、民政の比佐派とか野崎派とかの同志打ち以上の潮流がある、引いて方部的にも觀ねばならぬ、方部的に觀れば中部で新政友の逹沼氏が炭礦地帶から再び出馬は目に見えて居り、濱通りは小野晉平氏、北部では舊政友である盛氏が順番であるが、結局歸還の望みある木村守江氏に落ちつと荻原義雄氏であるが氏は郡部に廻るらしい、その民政黨の別

民政黨　は現職の小松章氏出で、郡南は現職の小松章氏出でずば坂本龜太郎氏、中部は荻原義雄氏、郡北で草野三郎氏翁が翁なるが故に引退とせば此の方面から民政として出すまじく、結局野崎氏自身が郡部に廻るか、他に同志を立つるか頗る從來の得票から擬して面白い縣議戰が展開される理である、此点はいくら選擧通でも判らぬ所であらふ

左に三年前昭和十年九月二十五日執行各候補の得票を掲して見る

草野	五、四九五
關内	四、八一八
小松	四、六一四
小野	四、四二六
逹沼	四、二四四
野崎	四、〇六七
赤津	三、二九六
齋藤	一、三七四

投票數　三二、三四四
樂權　六、八六二
有權者數　四三、六一八

當時の平町

有權者數	四、二六二
投票數	三、九九四
樂權	二九三

當時の平窪村

有權者數	六三〇
投票數	五一九
樂權	九五

右平町、平窪村中から關内氏が何票で野崎氏が何票なんて時勢は代る！死んだ！死んだ子供の歳を數へる樣なもの大した參考にもなるまいから止めることに

第一區選手權

豫選大會を

來春平市公會堂で執行か

磐城柔道有段者會の意氣込み

北六縣）の大日木選手權豫選大會を同公會堂で來春行ふべく準備を進めつゝある、處が此の統制を亂するものあり即ち、度々新聞紙に散見する磐柔道會について採め事ありとの事である、右の件について同會有力者曰く

相馬中學の柔道部長立石二段が、同中校四年五名、五年六名かの昇段方を本會を通ぜず田村中の小田原五段の手を經て推薦委任を講道館に申達せるもので本會では右は違法として同館に推薦返戻却下方を申達して居るから近く圓滿解決するであらふと

支那事變鄕土部隊の

盡忠美談書

二版、三版と好評增刊

石城養蠶奬勵會長　木田藤次郎○編刊

陸軍大臣板垣征四郎閣下より特に題字を寄せられた平市舊城跡石城養蠶奬勵會長木田藤次郎拔手編纂に係る『支那事變鄕土部隊盡忠奮戰美談』は第一版二千部大好評の基に第一戰に一死報公の精神を以つて奮戰しある地方出身勇士の基へ慰問書として各町村銃後會より發送せられ、それ〴〵陣中に於ける勇士の慰安の糧に役立ち喜ばれつゝあつたが此程第二版、第三版と增刷せられ一萬部發行の事になつた由なるも地方に於ける出版圖書としては驚異的の好評圖書であると、然して序文は好問章常高等小學校長吉田庄太郎、平市三猿文庫諸橋元三郎の兩氏が物されてある、四、五版百頁、實費分讓一部二十五錢である。又後編は兩角部隊が昨年十月雜攻不落と稱された老陸毛の激戰より廣東、漢口攻畧に至る鄕土勇士の奮戰美談を一萬部印刷に着手されたが刷成の曉きには是亦注文殺到好評を博するものとされてゐる

平稅務署管内

所得稅調査委員

平稅務署管内所得稅調査委員改選は去月十日執行され、十二日選擧會の結果立候補定員七名迄過せず高点爭ひにて左の諸氏當選決定した

正員

二〇〇票	小野　晉平
一九八票	柏原幸次郎
一九〇票	渡邊　貴一
一六三票	野崎　滿藏
一六二票	阿部政右工門
一三六票	寄天目信次郎
五七票	近藤　吉松

補充員（角孤内は正員）

二一三	豬狩　庄平（阿部）
一八四	大嶺　庫（柏原）
一五八	岡田　千藏（渡邊）
一五五	樫村　富藏（近藤）
	古川　慶藏（小野）

話ヤ目

公定物價と申すが、クバコ、酒の如きは別として日用品の騰貴はどうか、マツチ一錢に二箱が

安藤信篤公の二十三回忌

奮平藩主子爵安藤信昭家では先代子爵信篤氏信源院殿の二十三回忌が十二月七日であるが繰り上げて十一月十五日午前十時より平市良華寺に於て供養を營む由である、因みに信篤公は磐中藩十回卒業で同期では千葉平市第二小學校長、辯護士酒井喜代正三森虎雄、白井一郎氏等が在平して居り、實弟信義氏は平市鳳坂に母亡き後の境涯に在る

一五一　吉田恭平（寄天目）
一〇三　吉田詩三郎（野崎）
因みに沼田、竹田兩氏が候補斷念せる事を附記して置く

一片の孤城護り强し

山野邊兄！　山田絲雨

兄、故山歸來十五年、此間の艱戰苦闘は察するに余りある。蓋し、文爭人は物質的に惠まれる生活を送るは、覺悟の前ながら、全石城の文爭人に果して此の覺悟ありやしかるに余が敬愛する山野邊兄は、一片の孤城平新報を死守して此の非常に處せんとする。余は、兄の壯烈なる心境を推して、予自身の体驗に照して、兄の難行を偲ぶ。

吾れ人は逆境、苦難を經て、はじめて人生の眞に徹す。

たとひ一片の孤城守り難くとも兄よ！あらゆる障害を打破粉粹して、大死一番の覺悟を以つて、一途最後の目的に向つて邁進せられんよ。

一葉落ちて世界の秋を知り、三葉落ちて精神界の秋を知る！時、秋將に冷酷、月光水の如く流るゝ夜半、靜かに〳〵プラトーの眞理を味ふ者誰か生者必滅會者常離本來空！、宇宙不滅の眞に撤せざるものありや、遠く戰場に在りて東洋平和のため、皇國のため聖闘する軍さ人とその家庭を思ふ秋、實に感銘の思ひせざるもの一人もあるまじく、吾人銃後の同胞は何事を措いても護りを强ふせねばなるまい、その護りを强化するは各自の職業に、天分に忠實なるより他に術なし矣と筆者は常に力說しづゝある、與へられた天職に好きになれと云ふのである、即ち判り易く言ふなれば各自の職に趣味を持てと謂ふのである、特に平特高矢部君に聞つて置くが、趣味と道樂とは意味が異る、いや〳〵ながらその職に止つてはならぬ、これこそ轉業すべきである、筆者が新聞紙發行そのものに趣味を持てぬなら其筋から强要されずとも經濟の並行せぬ此の業に止つて居りはせぬ、然し生活以外に筆舌を以つてもの、し得ざる即ち好きなのである名譽職も必要とせぬ、いや進んでならぬ、其法の改正されざる今日『平新報』は『何事を絶排しても續刊する、旬刊は旬刊としての立場があり使命がある、狂人と笑ふものは笑へ、馬鹿と嘲るものは嘲れ、人生意氣に感ず、區々たる功名誰か論ぜんやである、筆者飽くまで正義に立脚して自己信念の下に邁進する、破邪顯正、自他啓發運動これが法に於て制裁出來得ぬ新聞の使命であらねばならぬ

磐中配屬將校

山口少佐

磐城中學校配屬將校は八月三十日附、少佐山口武臣氏原町居住相中と曼蹀校の受持ちである

平消防組陣容決る

組頭關内正一氏

副頭岡田政次郎氏

平消防組頭井上茂作翁物故後の同後任は副組頭關内正一氏去月四日附任命された、尚ほ副組頭は同組部長岡田政次郎氏同月二十六日任命された

左に關内組頭の挨拶狀と岡田副組頭の畧歴を報ずる

新副組頭岡田政次郎氏は本年五十五歳、明治三十七年四月消防手拜命、大正十年四月小頭、昭和八年四月第二部長に任命され、勤續三十五年の功勞者で濱通り切つての疊商、

謹啓　時下秋冷の候益々御清穆の段奉賀上候

陳者不肖今回揣らずも平消防組頭の重責を拜受仕候、素より淺學菲才にして故井上翁の遺鉢を繼ぎ光鄙ある組頭の重責を擔ひ候も自ら足らざる多きを痛感内心忸怩たるもの有之候

然れども一度この重任を拜し候上は義勇奉公の消防精神を發揚以而使命の遂行に邁進する覺悟に御座候間何卒前組頭同様御支援御教導賜り度特に奉願候

右就任御挨拶旁々御願まで如斯御座候　敬具

昭和十三年十月十日

平消防組頭　關内正一

川前永山德一氏の精勵と篤志

田村實業銀行頭取の永山德一氏は人も知る文人で書も良くするが最近時勢に感ずる所あり、朝四時に起床、同銀行に出勤前觀音經（妙法蓮華經門品第二十五卷）字數三千八百字を三日間に書き上げてこれを平地方戰死者遺家族に贈進しつゝありとの事である、その精勵振りと篤志に感銘されて居る、氏は磐中第一回卒業、平地方には經濟方面に關係ある人で、爾後何か精神文化事業に力を致す心組みである

山田綠雨氏

北、中支戰地視察に

十月六日出發

綠雨山田政好君は今回感ずる處あり、暫らくの謹慎を脱して經國新聞に入社特派員として北、中支戰地視察のため去る六日午前十時四十分上りにて平驛を出發した、君の壯途を盛んならしむるため、陸軍參與官比佐昌平市會議長野崎滿藏君の視旗が寄贈された、君は磐中第十一回卒業早大出身で著述を以つて業とし斷片的なる鄉土人物評に主きを置いたハ數種の著述がある當年四十七歳

新聞人動靜

磐城時報　は故士屋知美（寛）氏より歴史の古い合資會社、社長佐藤作平君發行、署名人は岡田弘成君たる事は從前通りであるが過般より野澤武藏君の經營となり、紙面は刷新されて五日の地震では活字が倒れ各印刷工場は相當の被害である

×　×

今回の地震地變では人命には大した被害はなかつた樣だが、地方各地とも土藏の如き建物、石碑等は市街地農村を問はずその被害は甚大なものである

×　×

今夏の水災に續いて今回の震災天、人間を試練するに余りに酷である

×　×

中島飛行場では其場勞働者に過激な運動は止めさして日陽ボツコをやらしつゝありとか、然り都會人の運動不足者には野球も必要、庭球も必要であらふ……が農村勞働者に何か屋外運動であるこんな事をやつて居る暇もなければ又疲れ切つた勞働者には休養こそあれ運動の必要なしだ、但し筆者は健康保健を度外視するのではない

×　×

平市では市制布かれて一年余、此處に商店法實施されて各商店の大半は毎月二十日定休となり去る十月より實施しつゝある、質に結構な事で、銀行の如き毎日曜日毎に休んでも用が足りつゝある、慣るれば需供者とも不便にならぬ筈である

磐城之實業　の大和田君は發行が平市でないためか其筋の廢刊强要を免れ從前通り續刊して居る

報知新聞　平支局長の田村參也君は相變らず活躍しつゝあるが平市公會堂建築委員から名譽毀損で告訴されたが其後どうなつたか知りたいものである此處で不思議なのはあの當時公會堂衝立問題で其他紙も報導した樣だが報知のみ告訴された に就いては一般が奇異の思ひを

×　×

他に廢刊せる句刊諸君の動靜は詳らかでない、新聞に關係ありて……となると其筋の句刊廢刊强要はその主旨何處に在るか、吾人の慣れた職業を捨つて迄、即ち生活に不安を與へて何とするのか、世は持ちつ持たれつである その間の人間味ある心情で平署特高係の諸君は句刊諸君に接したか、福島縣の縣策であり、上司の命令内達とあつてもマサカ知事、警察部長、引いて賢明なる本田平署長は句刊同人を被疑者扱ひをせよとは下命せまい、司法ならざる名も特高なるその名に恥ぢず十二分その職場にレフアインされて欲しいものだ、これ廢刊せる句刊同業者諸君の不平と反感との切望である

磐城之先驅　磐城之先驅の大井川幸隆君は發行人は同人でないが廢刊せぬ樣で歸省後仲間町に居を占めた樣だ

堀越君（小名濱）は最先に廢刊保險業にいそしんで居る

いわき新報　の高木喬君は水戸市發行のニツポン新聞平支局を經營して居る

内郷村報　の大内民惠君は發行が平市でないためか其筋の廢刊强要を免れ從前通り續刊して居る

磐城公論　平市會議員の大和田與兵衛君は本紙前號報導通り續刊

石城養蠶　奬勵會長の本田藤次郎君は從來通り其會の會報を出す

會報　に入つて平の教育平市報を始め、各町村報、入山自治會報、最近現はれた平市農會報の如きはパルプ制限の今日寄に倍し續刊されるであらう……

石城民政黨重鎮である吉田五平君は同紙を廢めたらしい

鹿島村の生んだ逸材矢吹君

高文に合格

警視廳電信課勤務の矢吹幸太郎君（二十七歳）は今回高文に合格した、君は本郡鹿島村出身でかつて湯本郵便局に勤務せる秀才で獨學力行の人である

音信交換

轉居御通知

拜啓　秋の好季節に入り御高家御清祥の事と祝し上ます扨て當方今度左記に居を構へる事と致しました故此段御通知申上ます何卒此方面御通過の節には武藏野の寓居へ御立寄り下され度待上ます　草々

昭和十三年九月十九日

坂本義孝
同　太代子

新住所
東京市板橋區下石神井二ノ一六八〇

勤先　瑞西國公使館
電話九段二三〇二番

平新報

創刊拾五週年

贊援芳名錄（三）

（敬稱略）

東京市瀧野川區瀧野川町六九二
赤堀信平
電話王子三三六三

平新紅筆

△玉川の愛助姐さん尼子亭を引き受けて經營は目出度い事である、

△青柳の跡に山形屋の君太郎さん入り金みよしとしてこれ又胡麻澤の澤の湯より經營替へがあらふといふもの

△山形家の小歌、前の色子兩姐さんとも、足を洗つて芹や一丁目、片や大町邊に一戸をかまいた相である

△吉野屋の元の千松さん、湯本を引きあげて平市入り

和洋銅鐵金物問屋
㊥金屋商店
諸橋久太郎
電話九九九番
デンキ・タイヤー部
電話六三一番

吸入用酸素
純度99%

度量衡
モノサシ
ハカリ
マス

計量器
体温器
寒暖計

（カリ）トリ、（ダマイト）トリカヘ
秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス

寫眞機材料一式

關内藥局
電話四〇番

平市田町（電話五一三番）
高久病院
院長　高久忠
副院長　赤羽清
藥局長　佐竹菊雄
内科小兒科
耳鼻咽喉科
外科花柳病科

内科小兒科
藤沼醫院
平市紺屋町
電話五〇七番